

<仙台国税局長賞>

## 学ぶ私達と将来

田村市立船引中学校 3年 渡辺 茜

私達は、何不自由なく勉強している。清潔で、ある程度の設備が整っている学校。たくさんの優しい先生や、用務員さん。そして無料で与えられる、新品のキレイな教科書。私には、これといった不満がない。しかし私は勉強が大の苦手だ。椅子に静かに座って授業を聞いて、黒板の字をノートに転写する。つまらない。その思いから、私は教科書とノートを開かなくてはならない授業が嫌いだった。

しかし、そんな私の思いを変える授業があった。英語の授業だ。ガーナでは、子供達は労働力となり、家にお金をいれるため、仕事に就く。だから、勉強ができず、学校に行ったことのない子供達がたくさんいる。学校に行けるのは、裕福な家の子供だけ。そんな内容だった。私はこの話を知ったとき、背すじが凍るような思いだった。お金をたくさんもっていないと勉強ができない。私の家は母一人子一人で、決して裕福ではない。母が毎日頑張ってくれている。私がガーナに生まれていたら絶対に、勉強なんてできていないし、今の平和で、幸せで、何の不自由もない学生生活は送っていないことだろう。私はこの出来事から学習への取り組みや、意気込みを見直すようになった。

では、なぜ私はこのような生活を送れているのだろうか。私は税の力が大きいと思う。公民の授業で子供一人につき、一年間で一〇〇万円近くかかると知った。小学校での六年間と中学校での三年間、合計九年間で九〇〇万円近くかかってしまう。それに、私達が健康で元気に登校できるのも、病院があるからであり、税金というシステムがなかったら通院もできず、勉強どころではなくなってしまう。たくさんの場面で、国は私達の「学び」をサポートしてくれている。将来の夢ができる、目標を達成するための道筋の計算ができる。こんな当たり前のことも、全ては税があるからこそだ。こんなに充実したサポートをしてもらっているのに、本気で勉強をしなければ申し訳

ない。教科書は、私達の将来に期待して無償で寄付されている。だから私は、学業に励み、将来を期待されている私達だからこそ、社会に貢献したいと思う。今はまだ、勉強を好きになることはできない。しかし、税金を納めてくれている人に対して、感謝の気持ちを忘れないでいようと思う。

日本は少子高齢化社会のため、人材が足りず、若い人達の力が必要となっている。ならば、今から社会の役に立てること、税金を納めてくれている人に対して感謝の気持ちを表す事ができることに取り組みたいと思った。普段、何事にも消極的な私だが、こんなにも「行動に移したい」と積極的になったことは初めてだ。私達が大人になって、学生を見守る側になったとき、この「税」というシステムがあって、未来を支える子供達に、今の私達と同じように何不自由なく、勉強に取り組める環境があってほしい。